



Investor's Guide

2026年6月

明治ホールディングス株式会社

01	CONTENTS	13	事業紹介
02	沿革	13	食品セグメント
03	業績推移	18	医薬品セグメント
03	連結業績の推移	21	株主還元
04	営業利益の推移と業績ポイント（食品セグメント）	22	株主優待
05	営業利益の推移と業績ポイント（医薬品セグメント）	23	マネジメント紹介
06	事業ポートフォリオ	24	情報開示媒体
06	事業領域と主要製品	25	データ集
07	海外展開	30	用語集
08	明治グループの目指す姿		
10	明治グループの強み		
10	確かなブランド力		
11	感染制御のプラットフォーム		
12	社会や環境に配慮したバリューチェーン		

明治グループが目指す「meijiらしい健康価値」

私たちが目指しているのはCURE（なおす）・CARE（まもる）・SHARE（わかちあう）によって、すべてのステークホルダーに「meijiらしい健康価値」をお届けすることです。CURE・CAREとは、赤ちゃんからお年寄りまであらゆる世代の方々に向けて、こころとからだに良い変化を起こすスイッチをたくさん入れること。そして、一人一人により多く、より長くサポートしていくことで、健やかで幸せな笑顔にすること。SHAREとは、その笑顔を周りにいらっしゃる大切な人たちにまで、広く伝搬させていくこと。こうして、一人の健康をみんなの笑顔につなげていくことが、私たちが考える「meijiらしい健康価値」です。

100年にわたり「meijiらしい健康価値」を広く社会へ

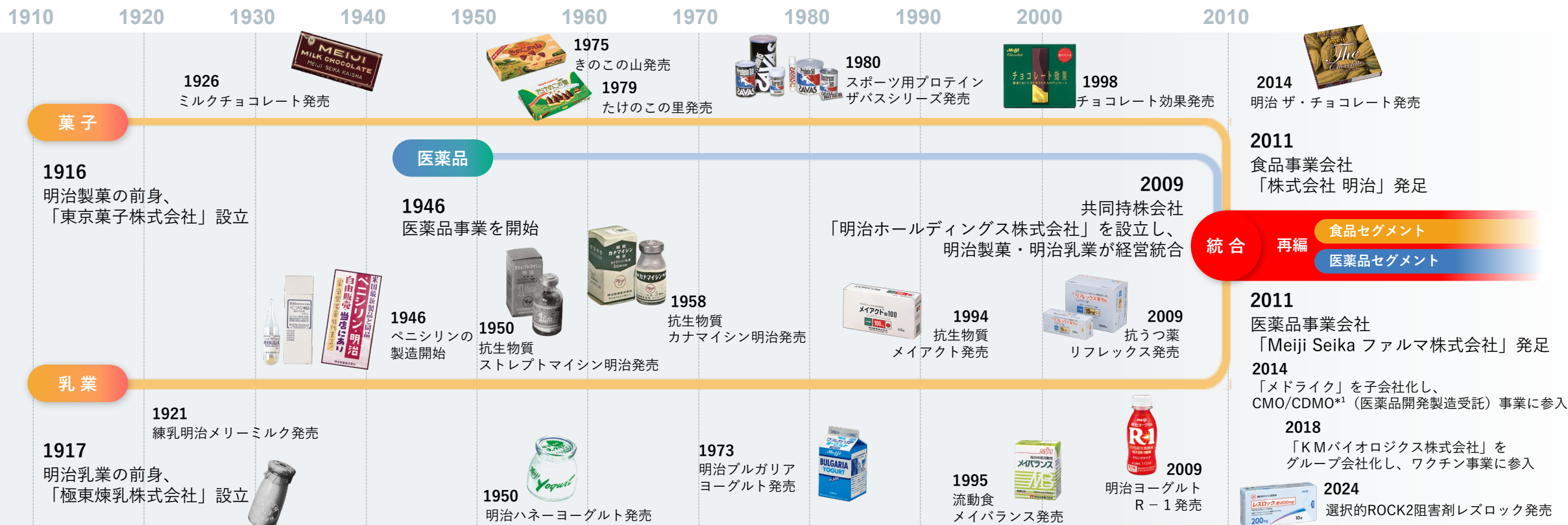
明治グループは創業以来、「栄養报国」の精神に基づき、幅広い年代のお客さまに向けて食と薬の領域で「meijiらしい健康価値」を創造し、時代のニーズを捉えた製品を提供してきました。

創業の理念「栄養报国」

明治グループの起源は、創業者の相馬半治が起こした製糖事業です。当時は貴重であった砂糖を広く普及させることで、我が国の食生活を豊かにしたいという「栄養报国（栄養を以って国に報いる）」の精神が現在まで脈々と受け継がれています。



相馬 半治



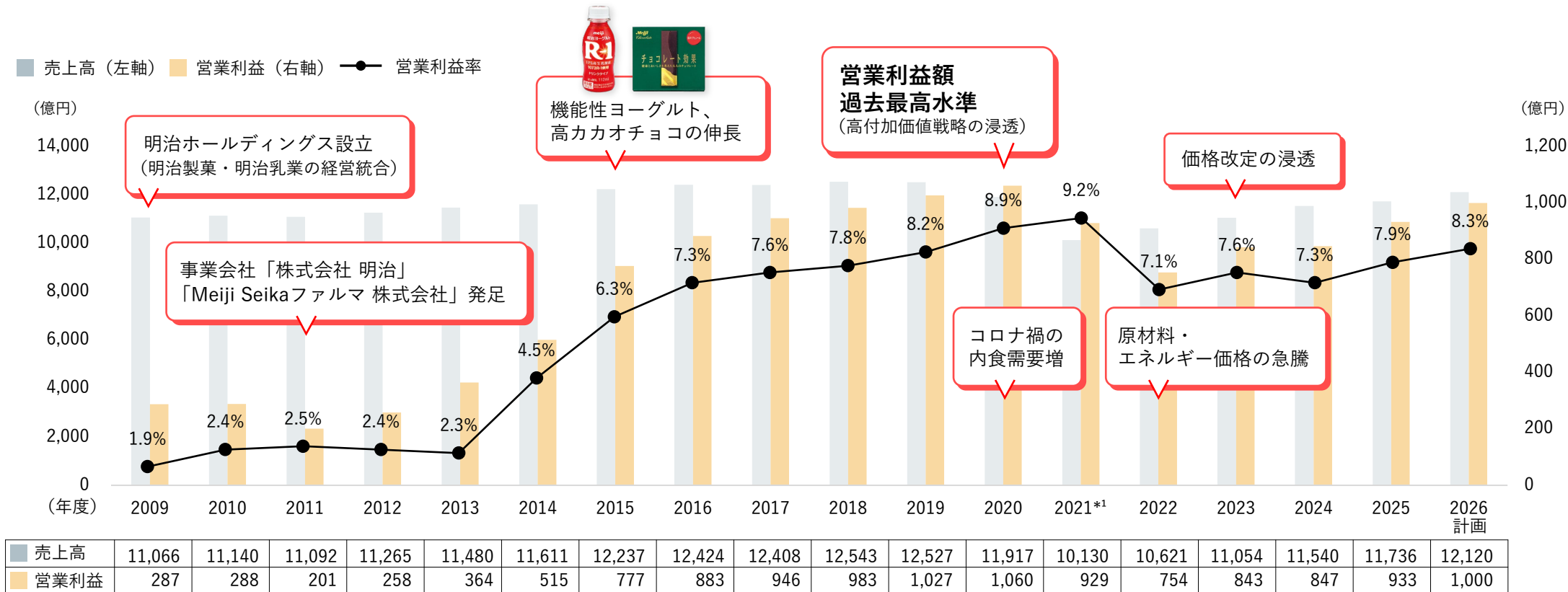
*1 巻末用語集参照

経営統合・事業再編を経て 確固たる収益基盤を構築

2009年の経営統合、そして2011年の事業再編以降、「食品」「医薬品」の領域で新たな健康価値の創造を追求し、いっそう収益基盤を強化することで高収益の企業体へと進化しています。

利益改善の取り組み

経営統合後、R-1をはじめとしたヒット商品の発売、不採算事業からの撤退や商品の絞り込み、組織や拠点の見直しによるコスト削減など主に食品セグメントを中心に利益改善に取り組みました。近年は医薬品セグメントの構造改革を進め、安定した収益基盤の構築に貢献しています。

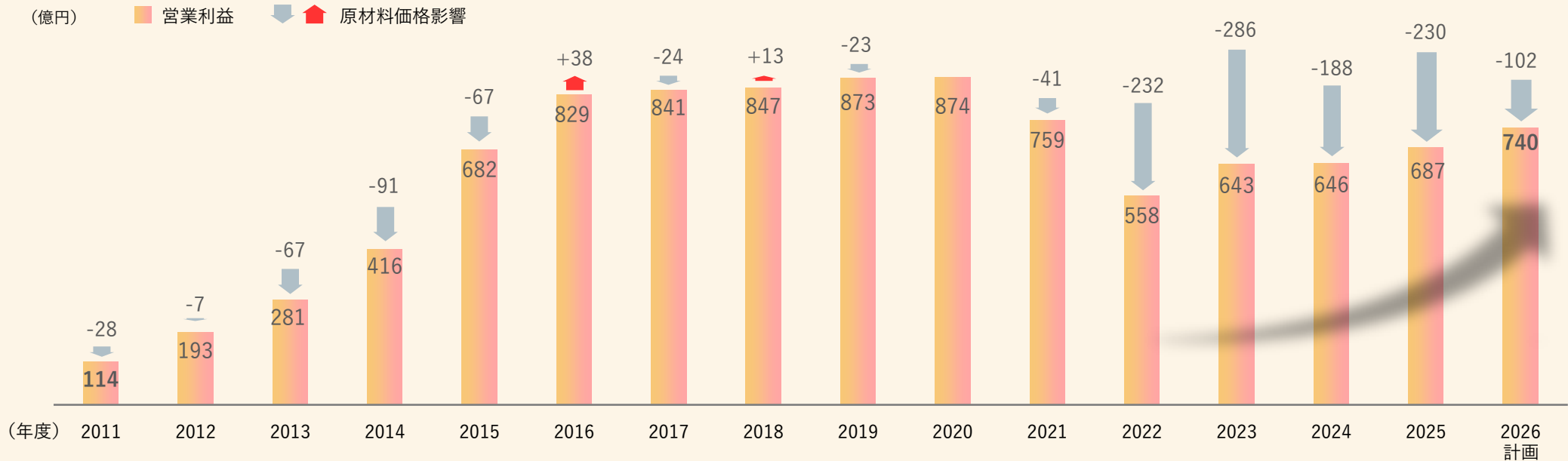


*1 2021年度より「収益認識に関する会計基準*2」（企業会計基準第29号2020年3月31日）等を適用しています

*2 巻末用語集参照

コストアップを克服して、再び成長軌道へ

食品セグメントは、機能性ヨーグルト市場の創出や商品の選択と集中により利益成長を続けてきました。近年は、原材料費高騰などのコストアップに直面していますが、生産体制の最適化や戦略的な価格改定などの施策を適切に実行し、収益性を回復させています。



直近の業績ポイント

2024年度

- 原材料コストアップ (約190億円) を価格改定効果 (約270億円) で吸収し増益
- 特にヨーグルトは下期より数量も回復傾向

2025年度

- 原材料コストアップは継続、特にカカオの影響が大きい
- 順調に数量は回復し、前年度の価格改定効果も貢献
- 生産体制の見直しを継続
- 海外事業の利益改善

2026年度

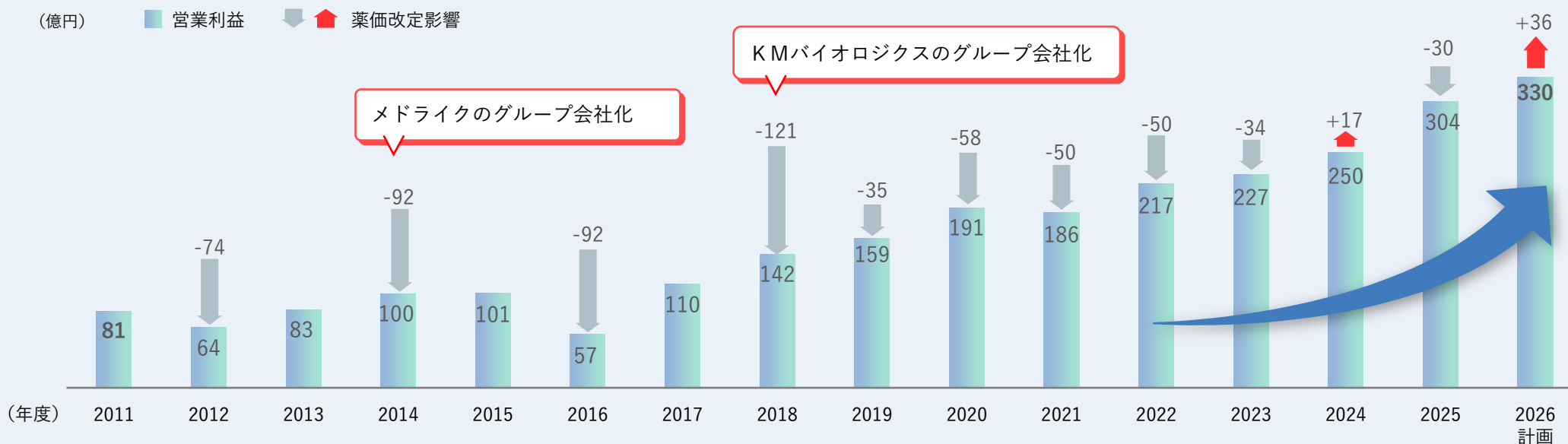
- 数量回復と価格改定の定着
- 海外事業の回復

2027年度以降

- 国内新工場の稼働開始
- 海外事業の成長

感染症領域の安定成長に、新薬を上乗せ

医薬品セグメントでは事業ポートフォリオの選択と集中を進め、薬価改定*1の影響をうけにくい供給確保医薬品*1やワクチンに注力しています。抗菌薬の安定供給や感染症予防などの社会課題解決に資する事業を推進することで成長を続けています。



直近の業績ポイント

2024年度

- 抗菌薬の供給不安への対応
- 薬価のプラス改定
- レズロックの発売
- コロナワクチンの供給開始

2025年度

- 血漿分画製剤の販売拡大
- レズロックや5種混合ワクチンの成長
- 大正製薬の不眠症治療薬の共同販売開始
- 抗菌薬の原薬製造開始

2026年度

- 薬価のプラス改定
- レズロックやグロブリン製剤、5種混合ワクチン、ボルゾイの成長
- 新規承継のオゾンライズド・ジェネリック*1 3品目の貢献

2027年度以降

- レズロックやOP0595のグローバル展開
- ワクチンの海外展開
- 研究開発の進展 (デング熱ワクチン、エムボックスワクチン など)

*1 巻末用語集参照

「食」と「薬」にまたがる、世界でも稀有な事業体

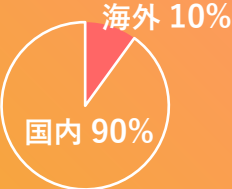



確固たるブランドのもとで多様な商品群を抱える食品セグメントと、感染症領域をはじめ社会の要請にグローバルで応える医薬品セグメントを両輪に、明治グループならではの事業ポートフォリオを構成しています。

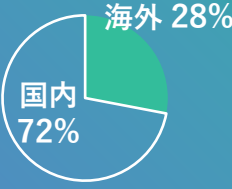


食品セグメント	デイリー	カカオ	ニュートリション	フードソリューション	その他
	<p>売上高 9,428億円</p> <p>営業利益 687億円</p> <p>2025.4.1~2026.3.31</p>	 <p>牛乳 ヨーグルト プロバイオ ティクス ヨーグルト</p> <p>売上高 2,726億円 営業利益 292億円</p>	 <p>チョコレート グミ</p> <p>売上高 1,868億円 営業利益 152億円</p>	 <p>乳幼児ミルク プロテイン 流動食</p> <p>売上高 1,188億円 営業利益 135億円</p>	 <p>チーズ BtoB アイスクリーム</p> <p>売上高 2,036億円 営業利益 95億円</p>
医薬品セグメント	国内		海外	ワクチン・動物薬	
	 <p>感染症領域 免疫領域 中枢神経系*1領域 ジェネリック医薬品</p> <p>売上高 1,166億円 営業利益 157億円</p>	 <p>海外自販</p> <p>売上高 648億円 営業利益 103億円</p>	<p>海外CMO/CDMO*1</p>  <p>ワクチン 動物薬</p> <p>売上高 507億円 営業利益 43億円</p>		

*1 巻末用語集参照

世界中に届ける「meijiらしい健康価値」

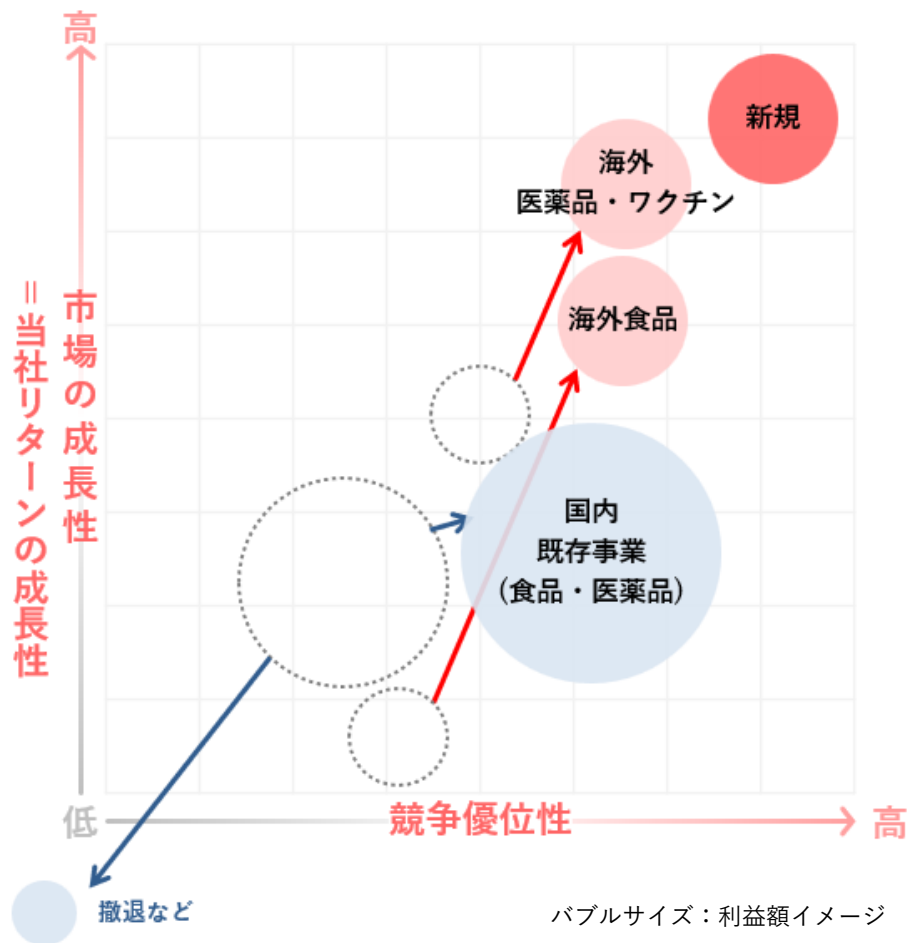
グローバル展開は、明治グループの最も重要な事業戦略の一つです。日本で培った知見や技術をもとに高品質な食品と医薬品を提供し、世界を舞台にさらなる成長を図っています。

食品セグメント	欧米	アジア	中国
<p>売上高構成比</p>  <p>2025.4.1~2026.3.31</p>	<p>北米市場での菓子・スナック商品が好調</p> <p>北米では、Meiji America Inc.（米国ペンシルベニア州）を中心にハローパンダ、ヤンヤン、チョコレートムスなどの菓子・スナック商品を展開。EU市場に向けても、現地企業と提携しキューブタイプ粉ミルクを販売しています。</p>  <p>売上高 401億円 営業利益 20億円</p>	<p>菓子や乳幼児ミルクなど幅広い商品群を展開</p> <p>タイ・インドネシア・ベトナム・シンガポール・台湾などのアジア諸国・地域において、各地のニーズに応じた事業を行っています。なかでも、ハローパンダ、ヤンヤンなどの菓子・スナック商品はアジア以外にも輸出しています。</p>  <p>売上高 329億円 営業利益 13億円</p>	<p>売上が堅調な菓子に経営資源を集中</p> <p>市場となる大都市にアクセスしやすい地域に生産拠点を構え、菓子や乳製品、フローズンデザート、BtoB商品を現地で生産・販売しています。なかでも菓子商品は、カカオ原料の特性を活かし、複雑な組み合わせができる生産技術が強みとなり売上が伸長しています。</p>  <p>売上高 282億円 営業利益 △60億円</p>

医薬品セグメント	グローバルな医療ニーズに応える生産体制を構築	グローバル生産拠点	主要な輸出国・エリア										
<p>売上高構成比</p>  <p>2025.4.1~2026.3.31</p>	<p>タイ・インドネシア・スペインの現地法人による海外自販事業、さらにグループ会社であるインドのメドライク社のCMO/CDMO*1事業を通して、抗菌薬やワクチンなどを世界の医療現場に供給しています。</p>  <p>売上高 648億円 営業利益 103億円</p>	<table border="1"> <tr> <th>グローバル生産拠点</th> <th>主要な輸出国・エリア</th> </tr> <tr> <td>インドネシア</td> <td>日本、東南アジア</td> </tr> <tr> <td>タイ</td> <td>日本、東南アジア</td> </tr> <tr> <td>インド</td> <td>欧州、アジア、アフリカ、オーストラリア、ラテンアメリカ、北米</td> </tr> <tr> <td>スペイン</td> <td>欧州、南米、東南アジア、日本</td> </tr> </table>	グローバル生産拠点	主要な輸出国・エリア	インドネシア	日本、東南アジア	タイ	日本、東南アジア	インド	欧州、アジア、アフリカ、オーストラリア、ラテンアメリカ、北米	スペイン	欧州、南米、東南アジア、日本	 <p>スペイン インド タイ インドネシア</p>
グローバル生産拠点	主要な輸出国・エリア												
インドネシア	日本、東南アジア												
タイ	日本、東南アジア												
インド	欧州、アジア、アフリカ、オーストラリア、ラテンアメリカ、北米												
スペイン	欧州、南米、東南アジア、日本												

*1 巻末用語集参照

目指す姿の実現に向けた事業ポートフォリオの変革



明治グループは「ブランドと信頼」「技術力」「食と医薬の両輪」という3つの強みを活かし、健康寿命の延伸に貢献します。新規事業の創出、海外事業での選択と集中、国内事業の構造改革というポートフォリオ変革を推進し、他社との協業やM&Aも積極的に行い、スピーディーな事業展開でグローバルな成長を目指します。

新規事業

- ・ 同業他社が模倣困難な新たな価値提案で、高成長・高収益領域を確立
- ・ オープンイノベーション、M&A、パートナーリングを積極的に活用し、事業化を迅速に推進

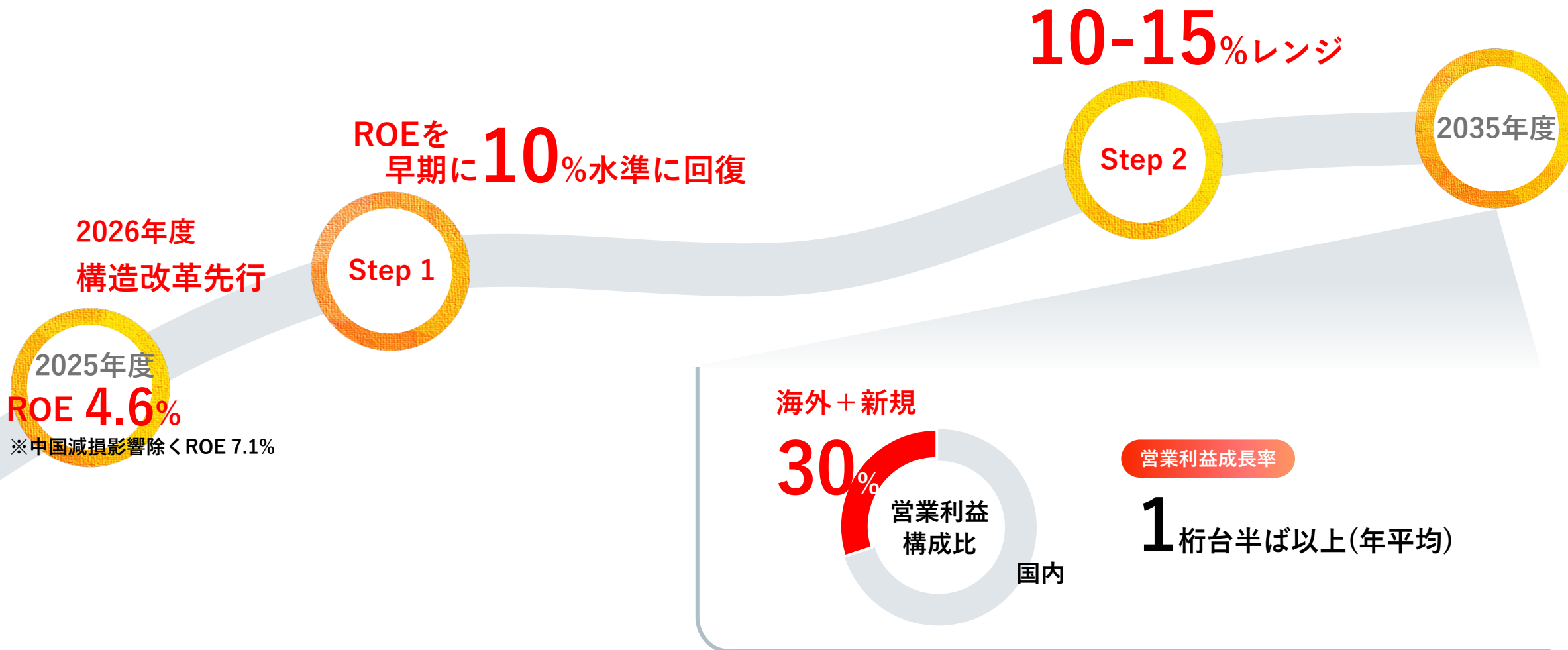
海外既存事業

- ・ 食品は競争優位性があり、利益成長が期待できる菓子領域に経営資源を集中
- ・ 医薬品はグローバル戦略品目（ β -ラクタマーゼ阻害剤、 Dengue熱ワクチン、エムポックスワクチンなど）への投資を強化し、成長加速
- ・ M&Aやパートナーリングを積極的に探索・実行

国内既存事業

- ・ 2026中期経営計画までの投資効果を最大化し、高い生産性を実現。安定したキャッシュフローを創出
- ・ 競争優位性の源泉となる「本質的な価値」を見極め、非戦略事業領域は撤退も含めて抜本的な構造改革を推進

ROEを最重要指標とし、グローバル市場で稼げる企業に変革
持続的な企業価値向上を目指す



強力なブランドをもとに、市場での優位性を実現

食品セグメントの商品群は、乳幼児から高齢者まであらゆる世代をカバーしており、その品質の高さや誠実な企業姿勢からmeijiブランドは多くのお客さまから支持を集めています。この強力なブランドをもとに市場での優位性を獲得し、さらなる新市場の開拓に挑んでいます。

市場リーダー

複数のカテゴリーでシェア1位を獲得
市場をリードするポジションを確立

圧倒的な
ブランド価値

強力な
商品群

蓄積した基礎研究による知見と商品開発力
高付加価値商品で安定した収益基盤を構築
新市場創造の原動力に

お客さまからの
信頼

お客さまに支持される高品質なブランド
安全・安心な製品でお客さまからの信頼を獲得



感染症の予防から治療までのバリューチェーンを構築

いま世界で大きな脅威となっている感染症に対して、医薬品セグメントはワクチン・抗菌薬を軸に、予防から治療まで一貫して担えるバリューチェーンを構築しています。感染制御のプラットフォームであることの価値を最大限に発揮し、事業をさらに拡大していきます。

ワクチンによる 感染症予防にも注力

2018年にKMバイオロジクスが明治グループに加わり、同社が開発・生産するインフルエンザワクチンや小児定期接種ワクチンなどの各種ワクチンの提供を開始しました。以降、医薬品セグメントではワクチンの安定供給や新たなワクチンの開発に力を注ぎ、感染症を予防して人々の健康に貢献することを目指しています。

➔ 感染症への取り組み | 会社紹介 | Meiji Seikaファルマ

ワクチン (予防)



インフルエンザワクチン
国内市場シェア

37.2% (2025年度)

Copyright © 2026 IQVIA.
出典：IQVIA医薬品市場統計
JPM2026年3月MATをもとに作成。
市場の範囲は当社の定義による
*無断転載禁止

感染症領域

予防から治療まで
感染制御のプラットフォーム
として機能

抗菌薬 (治療)



全身性抗菌薬剤
国内市場シェア

23.8% (2025年度)

Copyright © 2026 IQVIA.
出典：IQVIA医薬品市場統計
JPM2026年3月MATをもとに作成。
市場の範囲は当社の定義による
*無断転載禁止

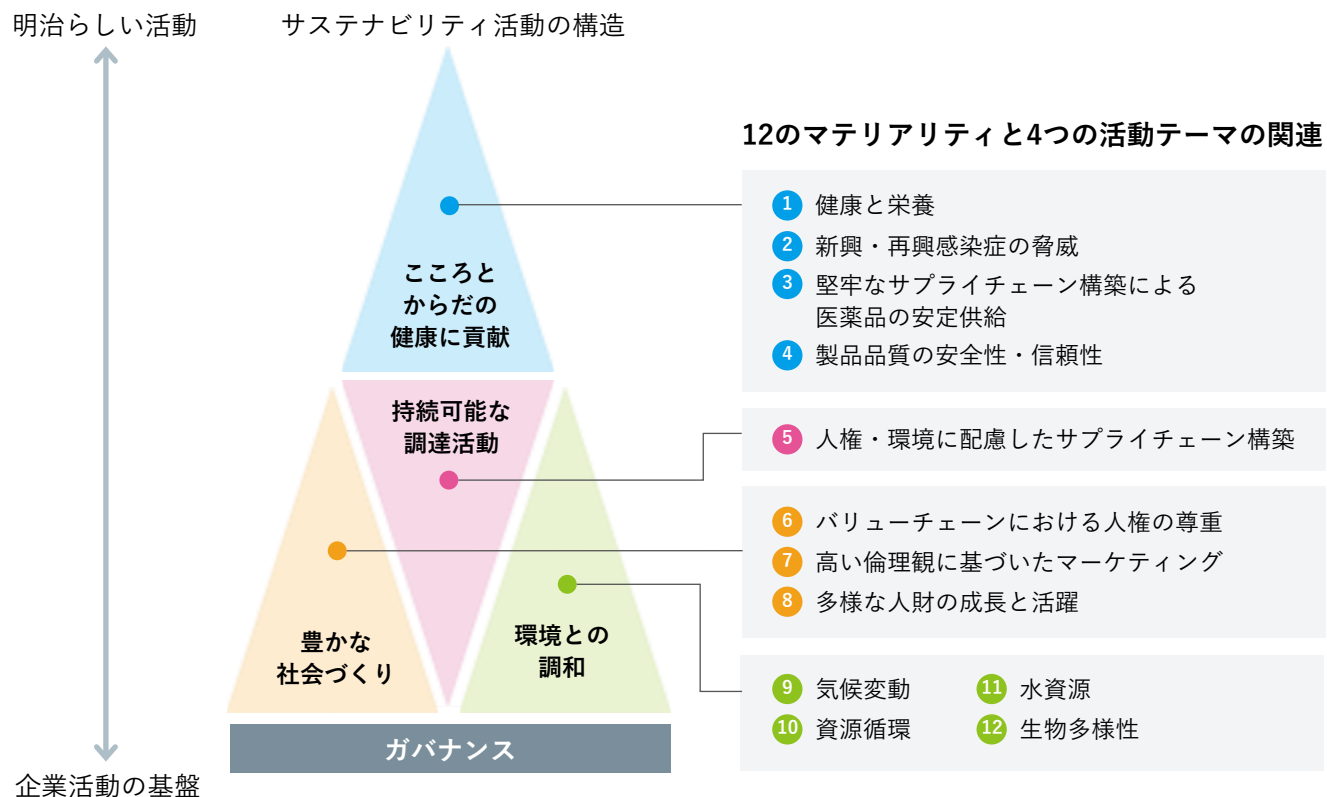
抗菌薬で日本の医療を守る

2022年12月、国民の生存や国民生活・経済活動に大きな影響のある物資を安定的に確保する「特定重要物資」として、感染症の治療や手術時の感染予防に欠かすことができない抗菌薬4剤が政令指定されました。医薬品セグメントは、そのうち2剤のトップサプライヤーであり、国内生産に向けた取り組みを進めています。



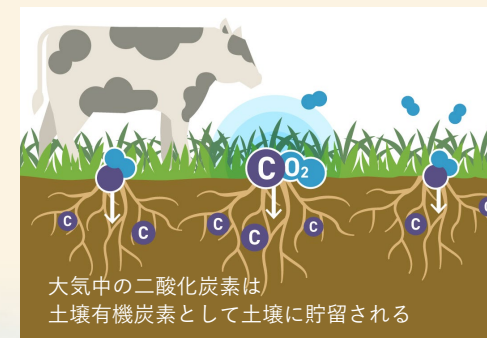
meijiらしい独自性のあるサステナビリティを推進

明治グループは持続的な企業価値向上のために、サステナビリティを重要な経営課題に位置づけています。その実現に向けて、国際基準に則り12のマテリアリティを特定し、4つの活動テーマにひも付け、特にmeijiらしい独自性が発揮できる取り組みに力を入れています。



カーボンファームでGHG排出量削減

明治グループは、一般社団法人道東サステナブル農業推進機構との協業により、大気中のCO₂を土壌に取り込み、農地の土壌の質を向上させながらGHG排出量削減を目指す「カーボンファーム」の評価・研究・実践を推進しています。現在、生乳生産量日本一の北海道別海町において実証作業を重ね、データの蓄積を進めています。こうしたサステナブルな酪農の実現に向けての取り組みを、日本発のアクションとして世界にも発信していきます。



実証作業を通して、再生農業の一つである不耕起栽培とカバー作物（被膜作物）が、土壌の炭素貯留を促進させる可能性があることが明らかになっています。

→ 道東カーボンファーム | 脱炭素型酪農と食のサステナビリティ



酪農乳業の広大な牧場はCO₂削減に向けた大きな可能性を持っています

主要商品ラインナップ

独自の技術に基づく牛乳類やヨーグルトを展開

独自製法による明治おいしい牛乳や、乳酸菌を究めた明治ブルガリアヨーグルト、明治プロビオヨーグルトR-1などのヨーグルト商品で国内市場シェアNo.1を獲得しています。

牛乳類



明治おいしい牛乳 明治おいしい生クリーム

国内市場シェア*1
(牛乳)
17.3% (2025年度)

ヨーグルト

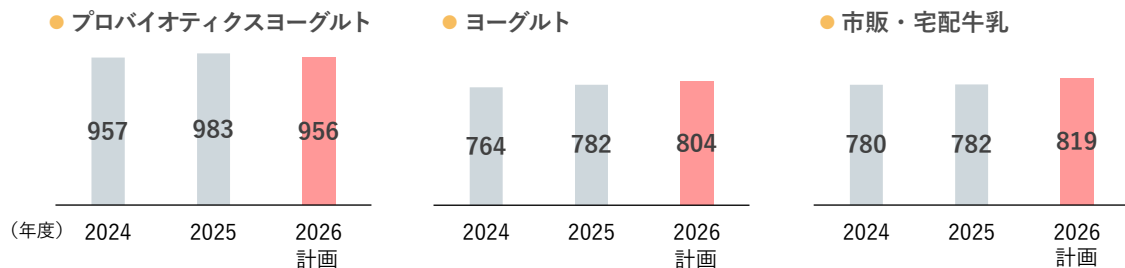


明治ブルガリアヨーグルトLB81 プレーン 明治プロビオヨーグルトR-1

国内市場シェア*1
34.2% (2025年度)

*1 出典：2025年度インテージ社SRI+

売上高*2 (億円)



*2 収益認識基準*3適用前

*3 巻末用語集参照

成長戦略

「菌」を強みとして、新たな価値を創造

明治グループは、長年にわたって乳酸菌や腸内細菌に関する独自の研究を重ね、いまや社内に6,000株以上のライブラリーを保有しています。この豊富な資産をもとに、世界的な研究機関とのオープンイノベーションにより、いままでにない健康機能を持った商品の開発を進めています。



世界初の新商品を投入し、市場を活性化

豊富な乳酸菌ライブラリーの中から、血糖コントロールの指標となるヘモグロビンA1cの低下をサポートする「MI-2乳酸菌」を発掘し、新たな価値を提案する新商品につなげています。

ヘモグロビンA1cの低下をサポート

MI-2乳酸菌を使用した明治ヘモグロビンA1c対策ヨーグルトを2025年10月に発売



TOPIC

2つの新工場を建設して国内生産拠点を集約し、生産体制を最適化

生産中止予定工場	新工場
<ul style="list-style-type: none"> ● 神奈川工場 ● 東北工場 ● 戸田工場 	神奈川新工場 稼働予定：2027年3月 投資額：約400億円 生産品目：プレーンヨーグルト、ドリンクヨーグルトなど
<ul style="list-style-type: none"> ● 西春別工場 ● 本別工場 	北海道新工場 稼働予定：2027年3月 投資額：約480億円 生産品目：脱脂濃縮乳、脱脂粉乳、乳たんぱく質、クリーム、バターなど

主要商品ラインナップ

「おいしさ・楽しさ」と「健康機能」を両立した商品

カカオの素晴らしさを引き出す技術を核に、アイデアやマーケティング力を駆使して新しいおいしさや楽しさ、そして健康価値を提供する商品ラインナップで高い支持を得ています。

チョコレート



明治チョコレート効果
カカオ72%



明治ミルクチョコレート



たけのこの里



きのこの山

No.1 国内市場シェア*1
26.4%
(2025年度)

グミ



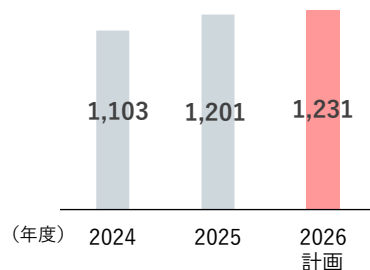
果汁グミぶどう

No.3 国内市場シェア*1
12.6%
(2025年度)

*1 出典：2025年度インテージ社SRI+

売上高*2 (億円)

● チョコレート



*2 収益認識基準*3適用前

*3 巻末用語集参照

成長戦略

メイジ・カカオ・サポートのさらなる推進

2006年よりカカオ農家支援活動である「メイジ・カカオ・サポート (MCS)」を開始し、現在9カ国でカカオ産地が抱える課題解決に取り組んでいます。近年、世界的にカカオ豆の需要が増大して生産がひっ迫しており、未来に向けて事業を持続可能にするためにMCSにますます注力していきます。



営農指導 (ガーナ共和国)

独自技術により新たなチョコレート市場を開拓

長年にわたって蓄積したカカオに関する豊富な知見をもとに、独自技術によって従来のチョコレート商品の概念を覆す新商品を開発・販売し、新たな需要を喚起しています。

革新的な新商品を発売

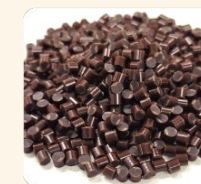
特許を取得した「生ねり製法」により、これまでになく味覚や食感を実現した生ねりとき。



TOPIC

カカオの未活用部位の活用や付加価値化

これまで積極的に活用されていなかったカカオ豆の皮などを利用し、食品に留まらない商品やソリューションの開発にも取り組んでいます。たとえば、加工段階で取り除かれていたカカオハスク (種皮) をアップサイクルしてバイオプラスチック化し、玩具や文具、アパレルなどの製品に展開しています。



生分解性の
カカオバイオプラスチック



カカオハスクを使用した
チョコ型 (ハスクトレイ)

遊べる! 学べる!
サステナブルきのこの山

主要商品ラインナップ

幅広い世代の栄養と健康を支える商品で市場をリード

粉ミルクや流動食など、乳幼児から高齢者まで幅広い世代の栄養と健康をサポートする商品を数多く展開しています。また、スポーツ栄養商品も市場から高く評価されています。

スポーツ栄養



ザバス ホエイプロテイン100 リッチショコラ味
ザバス MILK PROTEIN 脂肪0 チョコレート風味

No.1 国内市場シェア (プロテイン)
35.9% (2025年)

出典：
2025年当社調べ

乳幼児ミルク



明治ほほえみ

No.1 国内市場シェア*1 (乳幼児ミルク)
36.0% (2025年度)

流動食



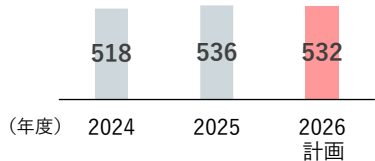
明治メイバランスMiniカップ さわやかヨーグルト味

No.1 国内市場シェア*1 (市販流動食)
87.0% (2025年度)

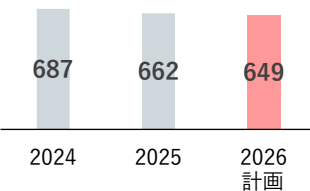
*1 出典：2025年度インテージ社SRI+

売上高*2 (億円)

● スポーツ栄養 (ザバスミルク含む)



● 乳幼児ミルク・流動食



*2 収益認識基準*3適用前
*3 巻末用語集参照

成長戦略

ターゲット別にスポーツ栄養商品の価値を訴求

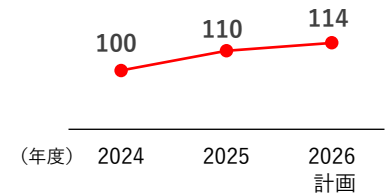
国内No.1ブランド、ザバスを擁するスポーツ栄養商品は、美容やダイエット目的の女性、運動不足を感じるビジネスパーソン、成長期に必要な栄養を摂りたいジュニア層など、ターゲット別に特徴や機能をアピールした商品を展開し、新たな市場を開拓しています。



ザバス ミルクプロテインで新ユーザーを獲得

プロテインの市場拡大に向けて、粉末を溶かす手間をなくしたドリンクタイプの商品を拡充しています。なかでもザバス MILK PROTEIN (ミルクプロテイン) は、仕事帰りや運動後、日常の栄養補給として手軽に摂取できるプロテインとしてライトユーザーを獲得し、売上が順調に伸びています。

● ザバスMILK PROTEIN 売上高伸長率



※2024年度の売上を100とした場合

超高齢化社会に 대응する多様な高栄養食を提供

高齢化社会の本格的な到来にともない、高栄養食・流動食市場のいっそうの拡大が見込まれています。当社の流動食は30年以上の臨床実績を持ち、医療・介護施設のみならず、一般の方々にも多様な商品を提供し、幅広いニーズにお応えして市場で確固たる地位を築いていきます。



主要商品ラインナップ

付加価値の高い業務用商品、市販チーズ・フローズンなどを提供

食品加工業・外食産業などのお客さまに向けて、乳素材やカカオ素材を開発・提供するとともに、市販のチーズやフローズン商品などを広く展開しています。

BtoB



明治 ルミエージュ



瑞練<生>ショコラ

フローズン・食品

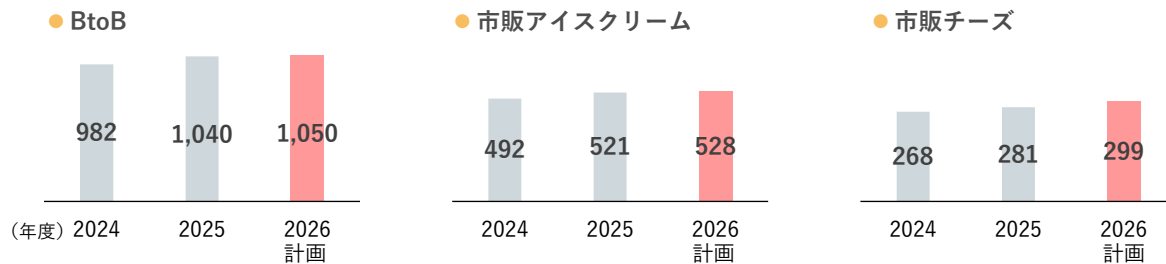


明治 エッセル
スーパーカップ
超バニラ



明治 北海道十勝
カマンベールチーズ

売上高*1（億円）



*1 収益認識基準*2適用前

*2 巻末用語集参照

成長戦略

成長余力を秘めたBtoB領域をさらに開拓

研究開発力や独自技術を活かした業務用商品を開発するとともに、「明治アプリケーションセンター」の活用によって、クリーム、チョコレート、チーズなど乳とカカオの技術を活かした複合提案でお客さまのニーズに応えています。他社と差別化された付加価値の高い商品で収益性向上を目指しています。

明治 ルミエージュ

ホイップに長時間を要する低脂肪分（植物性脂肪分18%）のクリームながら、独自技術によって短時間で口どけの良いホイップが可能。製菓業界の作業効率向上に貢献しています。



明治 カカオーロ（CACALOR）

原材料に「カカオマス」「カカオエキスパウダー」を使用し、本格的なカカオ感を実現したホイップクリーム。砂糖・香料不使用で、商品に合わせて自在にカスタマイズできます。



TOPIC

「明治アプリケーションセンター」による提案力の強化

食品メーカーが保有する製造ラインに準じた設備を持つ「明治アプリケーションセンター」では、食品加工業や外食産業のお客さまと直に対話しながら、さまざまなニーズにお応えする商品の開発を進めています。お客さまの課題解決を通して得られた知見をもとに、新しい市場や価値の創造につなげています。



展開エリア

グローバルでバランスよく成長事業を展開

食品セグメントにおける海外事業の売上高は、北米4割・中国3割・その他アジア2割とバランスの取れた構成となっており、カカオ事業を中心に高成長を実現しています。



● 展開エリア×事業マトリックス

	デairy事業	カカオ事業	ニュートリション事業	フードソリューション事業	
				BtoB	アイスクリーム
米国		●			
アジア	●	●	●	●	●
中国	●	●		●	●
欧州		●	●		

成長戦略

競争優位性のある戦略商品を開発

技術力やブランド力を活かした商品の開発に力を注いでいます。戦略的な知的財産活動を推進し、M&Aやアライアンスによって海外での事業基盤を確立していくとともに、地域ごとにマーケティングを強化して最適な生産体制を構築することで、グローバル展開を加速しています。

技術・知的財産面で競争力を有する商品

独自のキューブ製法技術により、乳幼児ミルクの利便性を格段に向上させた「キューブ型粉ミルク」をダノン社へ製造供給し、ダノンブランドで欧州市場で販売しています。



おいしさや製造技術で差別化可能な商品

人気商品であるきのこの山を、海外市場向けにローカライズして開発したチョコルームス。そのおいしさが評判を呼び、北米市場で好調に売上を拡大しています。



グローバルブランドの展開を強化

グローバルでヒットしているチョコスナック、ハローパンダのさらなる事業拡大へ向けて、米国での生産能力増強を計画しています。他にも成長ポテンシャルを秘めたブランドを数多く有しています。

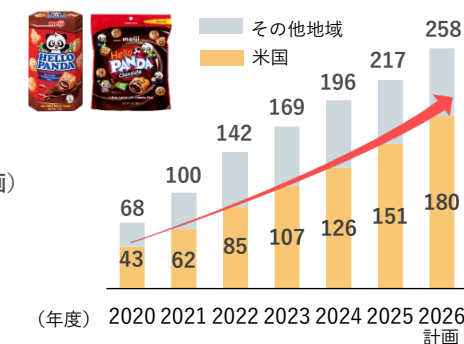
ハローパンダ
展開国・エリア数

30以上

年平均成長率
(2020年度・2026年度計画)

+24.8%

● ハローパンダ海外売上高 (億円)



*1 収益認識基準*2適用前

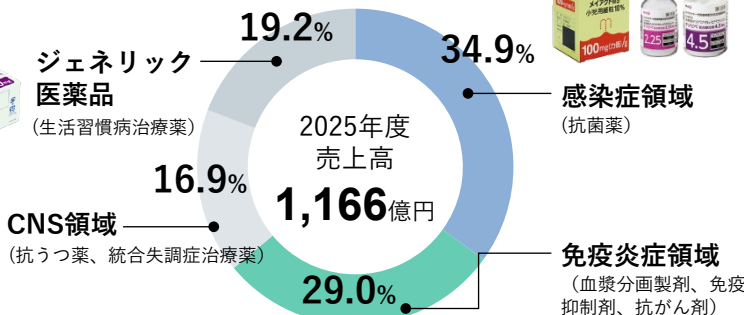
*2 巻末用語集参照

事業内容

感染症領域を中心に差別化されたラインアップ

薬価改定の影響をうけにくい抗菌薬が大半を占める感染症領域を中心に、治療ニーズが高い免疫炎症領域・CNS*1領域における新薬、さらにジェネリック医薬品で日本の医療に貢献しています。

領域別構成比

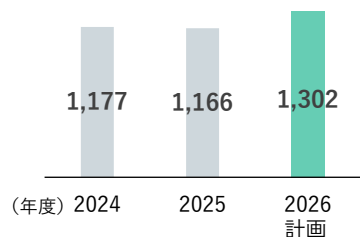


国内市場シェア
23.8% (2025年度)

Copyright © 2026 IQVIA.
出典：IQVIA医薬品市場統計
JPM2026年3月MATをもとに作成。
市場の範囲は当社の定義による
*無断転載禁止



売上高 (億円)



TOPIC

ペニシリン系抗菌薬の原薬生産体制を構築

感染症の治療や手術時の感染予防に必須である抗菌薬の供給不安を解消すべく、政府が国家戦略に掲げた「医薬品安定供給支援事業」の採択を受け、2025年12月より岐阜工場で約30年ぶりにペニシリン系抗菌薬の原薬生産を開始しました。



成長戦略

新薬のさらなる伸長によって市場を拡大

免疫炎症領域・CNS領域の新薬が好調であり、医療現場におけるプレゼンスをさらに高めていきます。

新薬売上高

	2025年度	2026年度計画
レズロック (慢性移植片対宿主病治療薬)	90億円	100億円
ボルズィ (不眠症治療薬)	25年11月発売	前年比約7倍

不眠症治療薬を大正製薬株式会社と共同販売

大正製薬との提携により、国内で約1,000億円に及ぶ不眠症治療薬市場に向けて、新薬ボルズィの販売を2025年11月より開始しました。消失半減期が短く、投与の翌日まで効果が持続する懸念を減らせる新薬として期待されています。



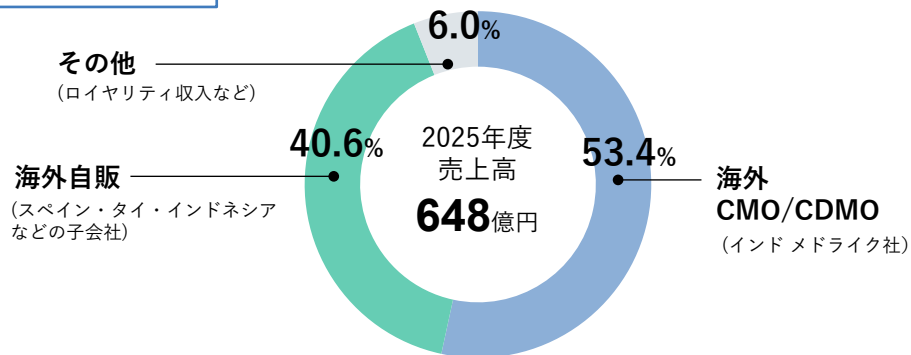
*1 巻末用語集参照

事業内容

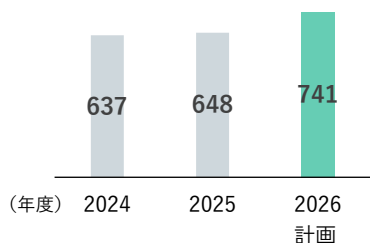
グローバルな生産・販売体制で医薬品アクセス向上に貢献

世界各地の生産拠点から、自社販売あるいはCMO/CDMO*¹によって、抗菌薬をはじめとする高品質な医薬品を低コストでアジア、中東、欧州、アフリカなどの地域に提供しています。

カテゴリ別売上高構成比



売上高 (億円)



CMO/CDMO事業が成長をけん引

2014年、明治グループはCMO/CDMOで豊富な実績を持つインドのメドライク社をグループ傘下に収めました。以降、品質管理と生産能力の強化によってグローバル製薬企業からの受託が大きく伸びており、海外事業の成長をリードしています。

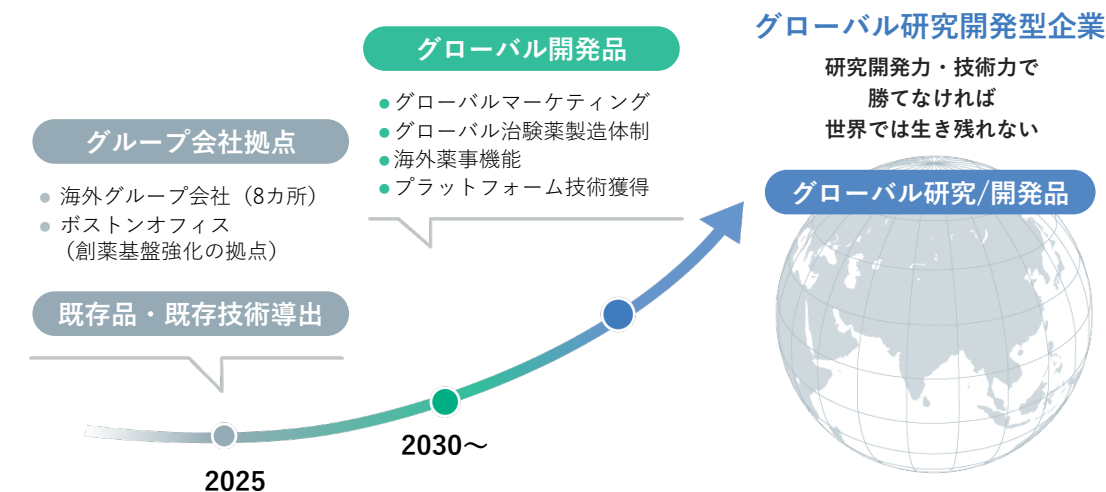


成長戦略

グローバル研究開発型企业への飛躍

競争が激化する医薬品市場で勝ち抜いていくために、医薬品セグメントは「グローバル研究開発型企业」を目指しています。近年、海外のアカデミアやスタートアップ企業との連携によるネットワーク創薬研究を推進しており、2024年には米国のボストンに新たなリサーチ拠点を設立しました。こうした取り組みを通して世界最先端のサイエンスに絶えずアクセスし、最新の創薬基盤技術の獲得を図っています。今後はグローバルなマーケティングと臨床開発の体制を構築し、世界が必要とするFirst/Best in Class*¹の新薬創出に挑んでいきます。

グローバル研究開発型企业への躍進



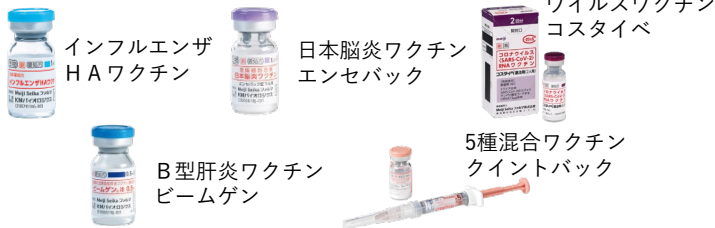
*¹ 巻末用語集参照

事業内容

社会にとって大きな脅威である感染症を予防

約半世紀にわたって各種ワクチンを開発・供給し、感染症予防と日本の公衆衛生向上に寄与しています。また、動物薬でも感染症の治療薬やワクチンを提供しています。

ワクチン

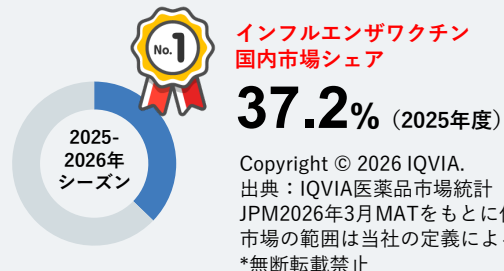


動物薬

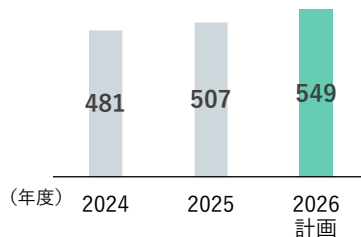


国内トップシェアのインフルエンザワクチン

確実な生産と早期出荷、さらに普及活動との連携によって、2025年度もトップシェアを堅持しています。引き続き早期出荷に努め、トップメーカーとして接種率拡大に向けた啓発活動にも注力していきます。



売上高 (億円)



成長戦略

社会課題解決と持続的成長を両立

人口増加や疾病構造の変化で深刻化する新興国の医療アクセス課題に対して、医療基盤（必須医薬品）、予防（ワクチン）、供給基盤（メドライク社）の3本柱で応え、社会的使命を果たしながら持続的に成長していきます。

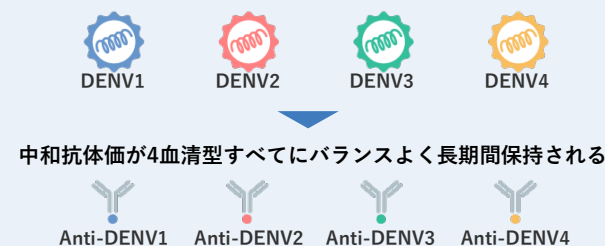


TOPIC

グローバル展開を視野に入れたワクチン開発

デング熱ワクチン

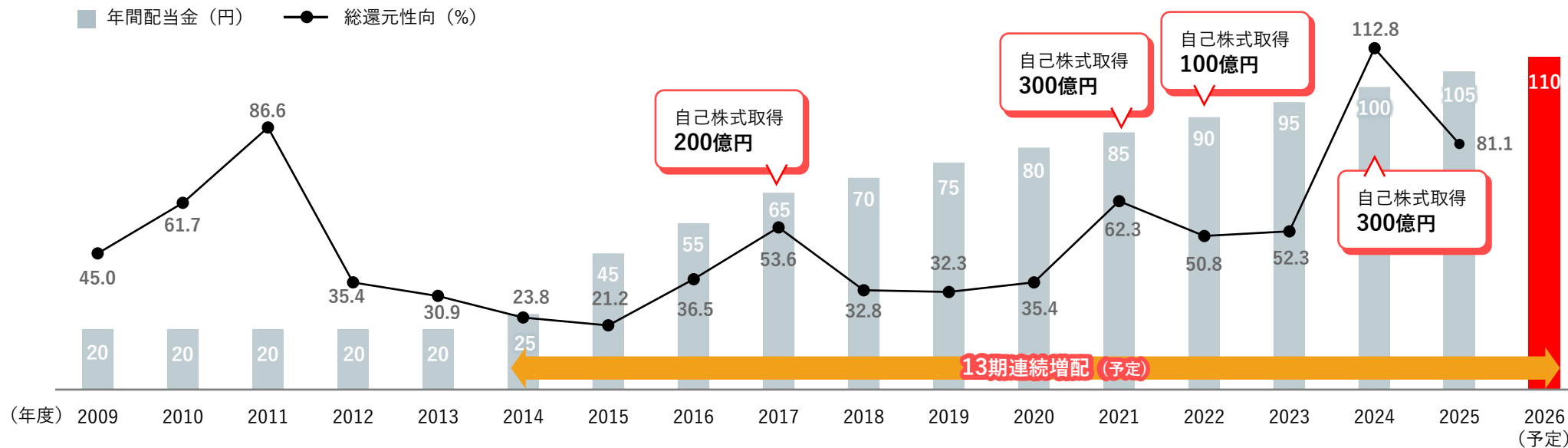
グローバルワクチン戦略の一環として、デング熱ワクチンの開発を進めています。1回の接種で、ヒトでの流行に関与する4種類すべての血清型への有効性が期待されるワクチンであり、グローバルでの臨床試験が進行中です。



総還元性向50%を下限水準とし、
継続的な増配と自己株式取得で
株主さまの期待にお応えします

配当方針

当社グループは、食と健康、医薬品を主な事業とし、お客さまの生涯を通じて身近な存在として事業展開しており、中・長期的に安定的な経営基盤の確保が不可欠であります。事業活動により得た資金は、持続的な成長に向けて、将来への成長投資や研究開発へ積極的に充当します。2024年度から2026年度までの「2026中期経営計画」では、株主の皆さまへの適切な利益還元についても経営における重要課題として認識し、各年度で総還元性向50%以上を目安とし、1株当たり配当額の継続的な増配を目指します。



日頃のご支援、ご愛顧に感謝し、株主さまへのご優待品をお届けします



長期保有株主さまへの優待制度導入

100株以上の株式を所有される株主さまを対象に、明治グループのおすすめ商品（地域限定品を含む）を詰め合わせたご優待品をお届けしています。さらに、100株以上を継続して3年以上保有いただいている株主さまには、通常の優待品に加えてプレミアムな「長期保有感謝BOX」を進呈いたします。

ご所有株式数	優待品	
	株式保有3年未満*1,2	株式保有3年以上*1,2,3
100株以上	1,500円相当	左記優待品 長期保有感謝BOX *4
200株以上	2,500円相当	
1,000株以上	5,500円相当	

*1 100株以上の株式をご所有の株主さまを対象に、ご優待品（明治グループ製品詰め合わせ）を10月末ごろにお届け（基準日3月31日）

*2 株主さまのご意志により、同等のグループ製品を福祉団体などへご寄贈いただくことも選択できます

*3 2026年3月末日の当社株主名簿に記載または記録された株主さまのうち、100株以上を継続して3年以上保有いただいている株主さまより対象

*4 2026年度の優待品とあわせて10月末ごろにお届け予定






参考
2025年3月期の優待品
(1,000株以上5,500円相当)

株主さま向けイベント

株主の皆さまに明治グループへの理解を深めていただくことを目的に、愛知・大阪・坂戸の国内各工場における製造ライン見学や食育セミナー開催など、各種イベントを実施しています。



坂戸工場見学会（2025年8月20日）

区分	氏名/役職		求めるスキル								
			経営戦略	グローバル ビジネス	営業・ マーケティング	財務・会計	人事・ ダイバーシティ	法務・リスク マネジメント	コーポレート コミュニケーション	サステナ ビリティ	デジタル
取締役		松田 克也 代表取締役社長 CEO *1	●		●		●		●	●	
		永里 敏秋 取締役執行役員 COO *2 (医薬品セグメント)	●	●			●		●	●	
		八尾 文二郎 取締役執行役員 COO *2 (食品セグメント)	●	●					●	●	
		古田 純 取締役副社長 CDO *3	●	●				●	●		●
		菱沼 純 取締役専務執行役員 CFO *4	●			●			●		
		松村 真理子 社外取締役					●	●			
		河田 正也 社外取締役	●	●			●			●	●
		久保山 路子 社外取締役	●		●		●		●		
監査役		ピーター D. ピーターセン 社外取締役	●	●			●			●	
		田巻 正順 常勤監査役					●	●			
		渡辺 康 常勤監査役				●		●			
		安藤 まこと 社外監査役				●		●			
	小松 正和 社外監査役						●				

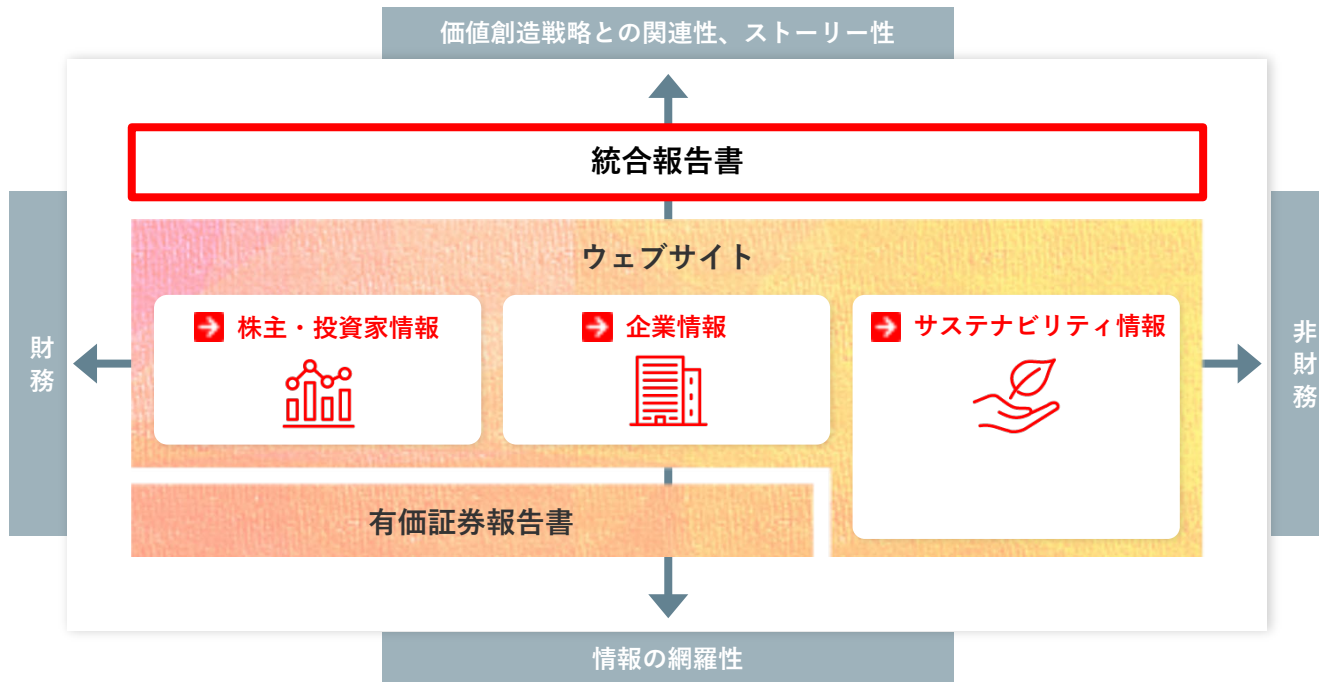
*1 CEO (Chief Executive Officer) : グループ全体の最高経営責任者として、グループの経営を統括

*2 COO (Chief Operating Officer) : 食品セグメント・医薬品セグメントの事業執行を統括

*3 CDO (Chief Digital Officer) : グループのデジタルテクノロジー戦略を統括

*4 CFO (Chief Financial Officer) : グループの財務戦略、経営管理を統括

明治グループでは、IR情報をダイジェストしたこの「Investor's Guide」をはじめ、情報開示媒体として統合報告書、有価証券報告書、ウェブサイトを展開し、それぞれ開示内容をすみ分けています。統合報告書には、価値創造戦略に関連し、明治グループおよびステークホルダーの方々にとって特に重要度の高い財務・非財務情報を掲載しています。独立監査人の監査報告書等が付された財務諸表等是有価証券報告書を、また、第三者保証を受けたデータは環境データ集をご覧ください。その他、明治グループに関するより詳細な情報を入手されたい場合は、右欄の各種ウェブサイトを併せてご活用ください。



ウェブサイトリンク

▶ 株主・投資家情報



- ▶ ビジョンと戦略
- ▶ IRライブラリ
 - ▶ 有価証券報告書 (PDF)
 - ▶ Investor's Guide (PDF)
 - ▶ DATA BOOK (PDF)
- ▶ 個人投資家の皆さまへ
- ▶ コーポレート・ガバナンス
- ▶ 財務・非財務ハイライト
- ▶ 株式情報

▶ 明治グループについて



- ▶ ネクストストーリーズ

「meijiらしい健康価値」を追求する取り組みをストーリーでご紹介しています。
- ▶ イノベーション

新たな健康価値創造の取り組みをご紹介します。
- ▶ 明治グループの概要

理念やスローガン、経営体制、事業領域、沿革などをご紹介します。

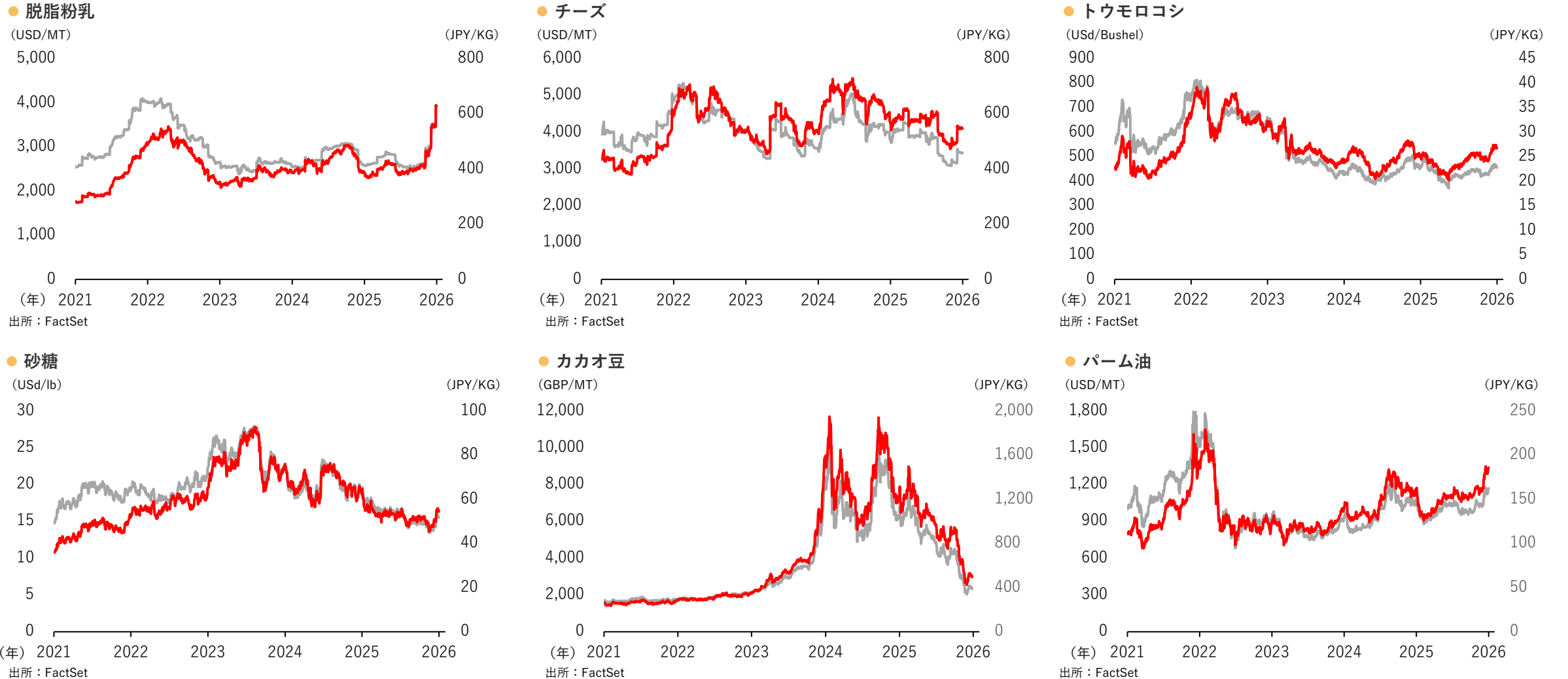
▶ サステナビリティ情報



- ▶ 健康と安全
- ▶ 環境
- ▶ 人財・人権・社会
- ▶ 原材料調達
- ▶ 外部イニシアチブとの連携
- ▶ 外部評価
- ▶ サステナビリティ情報索引
 - ▶ ESGデータ集
 - ▶ 環境データ集 (PDF)

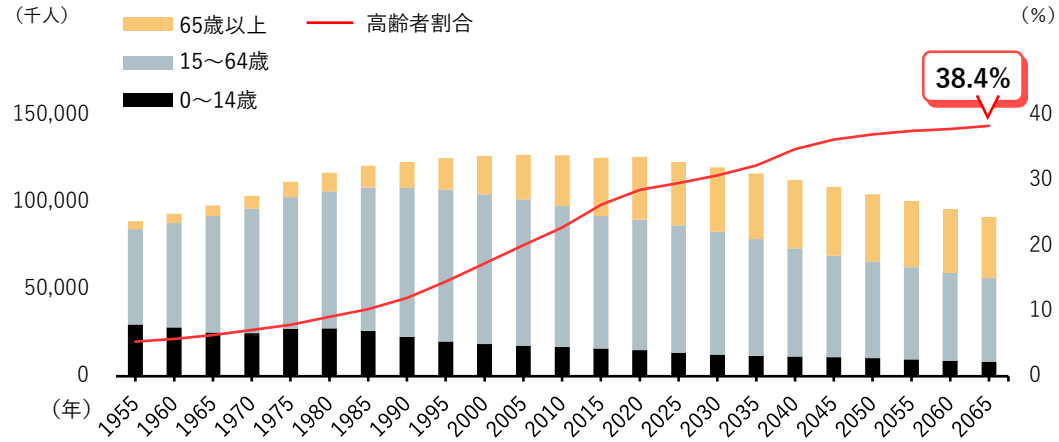
海外原材料相場

— 外貨建て (左軸) — 円建て (右軸)

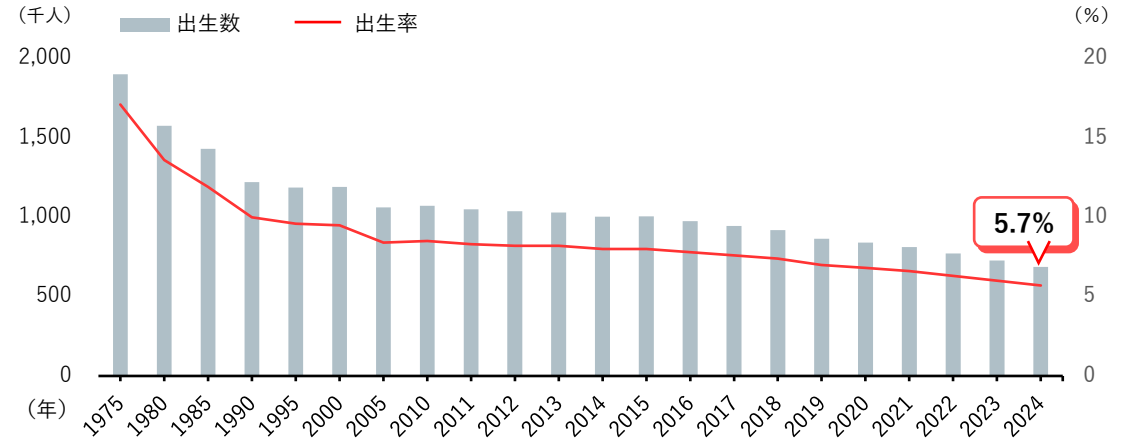


厚生関連統計

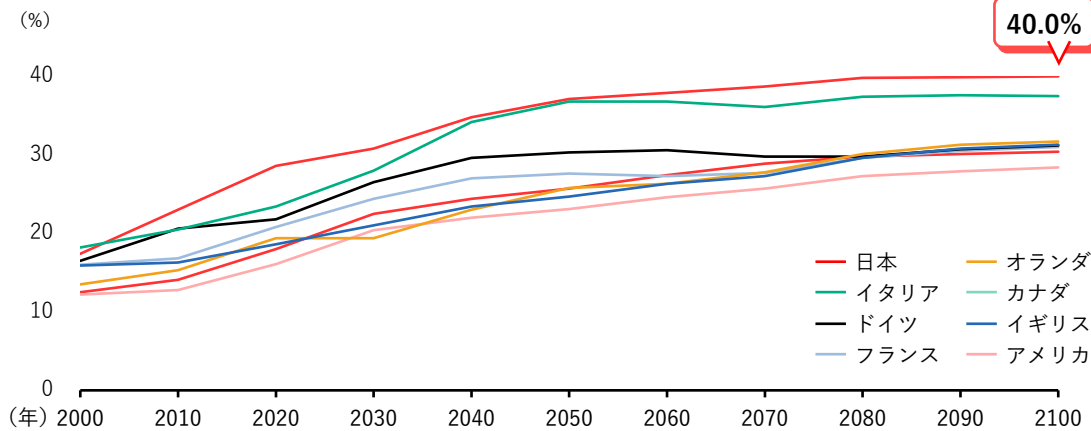
● 日本の総人口と高齢者人口割合（将来推計）*1



● 日本の出生数・出生率*2



● 老年人口割合の国際比較*3



*1 出所：国立社会保障・人口問題研究所(2026)

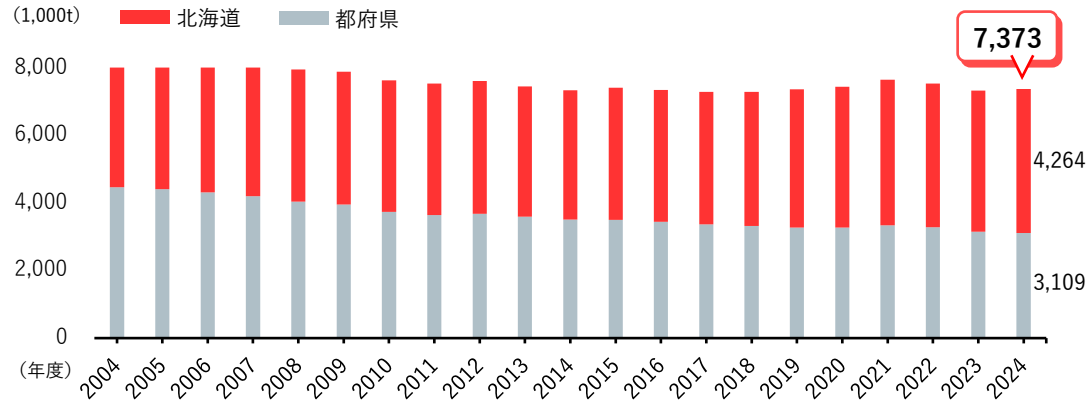
*2 出所：厚生労働省

*3 出所：国際連合

(日本は総務省および国立社会保障・人口問題研究所による推計値)

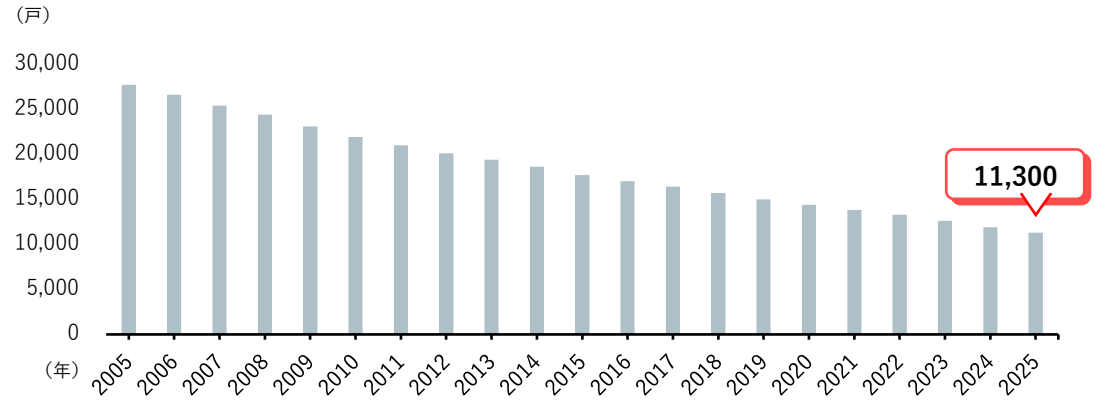
生乳・牛乳・乳製品関連統計

● 国内生乳生産量



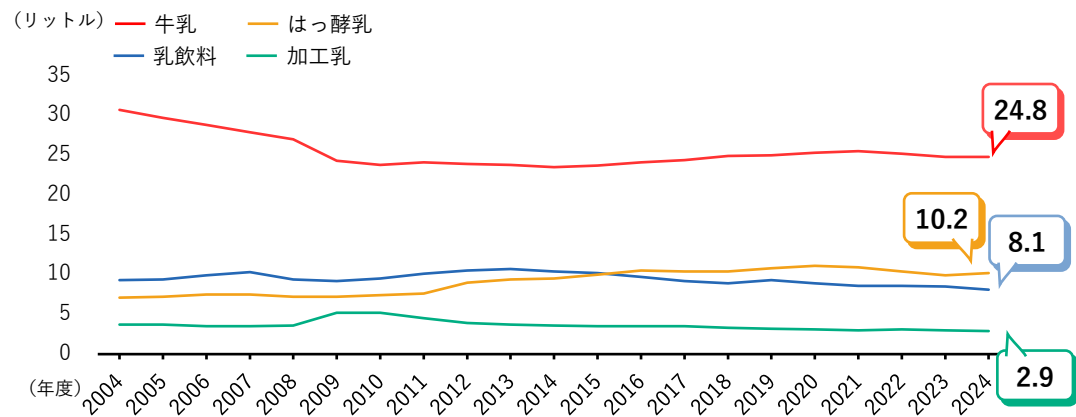
出所：農林水産省

● 国内乳用牛飼養戸数



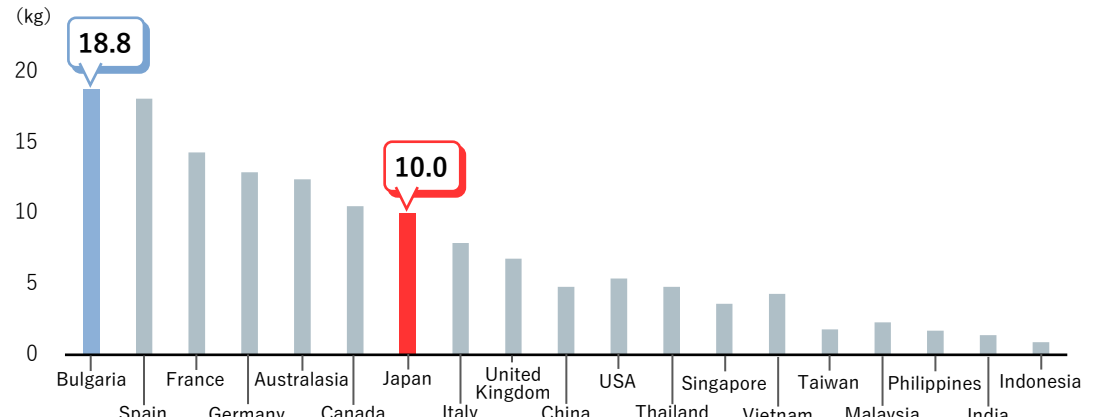
出所：農林水産省

● 国内牛乳乳製品の年間1人当たりの消費量



出所：一般社団法人 J ミルク

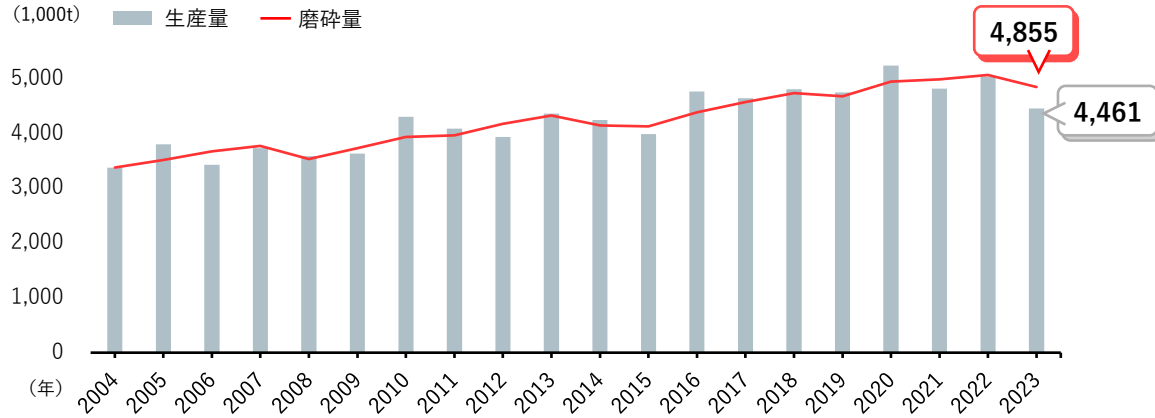
● ヨーグルト製品各国の1人当たり年間消費量 (2024)



Source: Euromonitor International

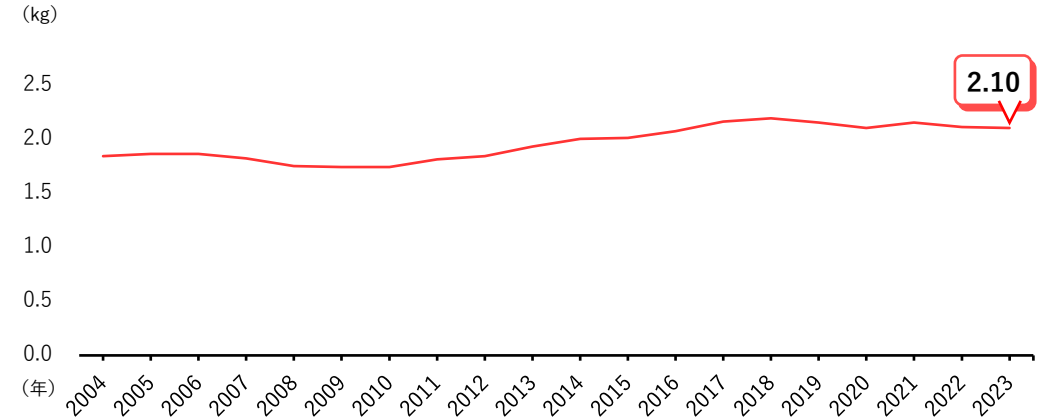
カカオ豆・チョコレート関連統計

● 世界カカオ豆需給量



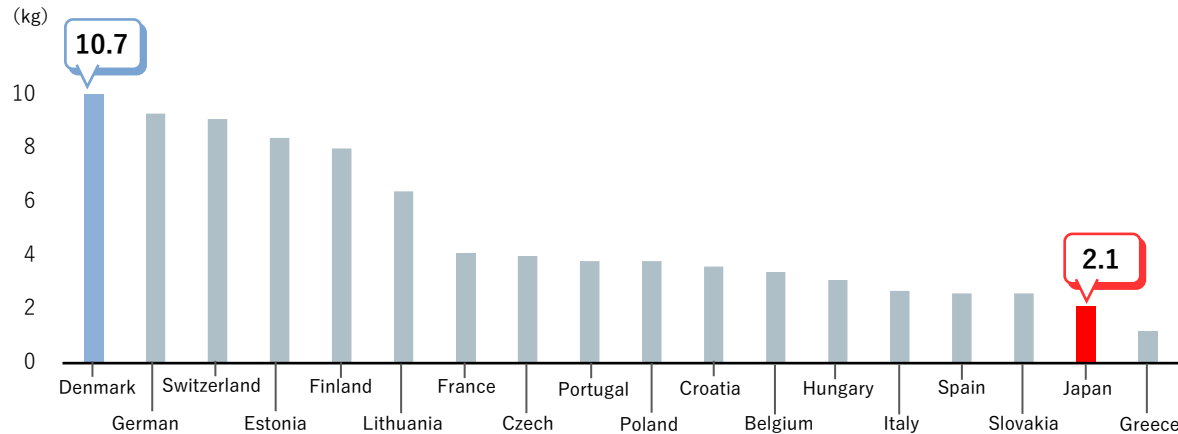
出所：国際ココア機関(ICCO)

● チョコレート製品国内1人当たり年間消費量



出所：日本チョコレート・ココア協会

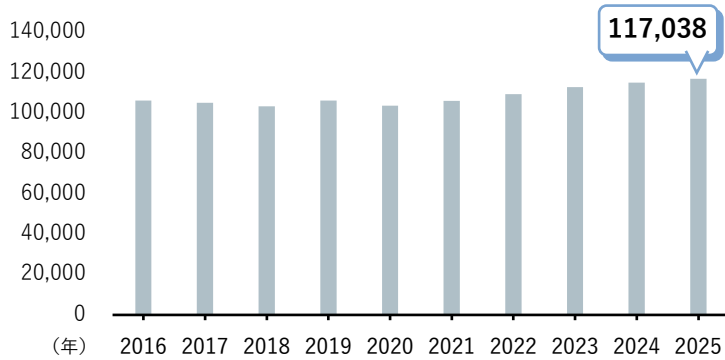
● チョコレート製品各国の1人当たり年間消費量 (2022)



出所：日本チョコレート・ココア協会、国際菓子協会、欧州製菓協会

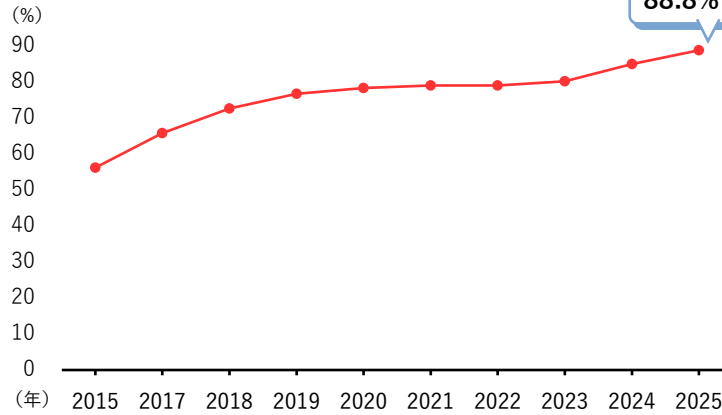
厚生関連統計

● 医療用医薬品売上高
(億円)



出所: IQVIA. トップライン市場データもとに当社作成 (無断転載禁止)

● ジェネリック医薬品シェア



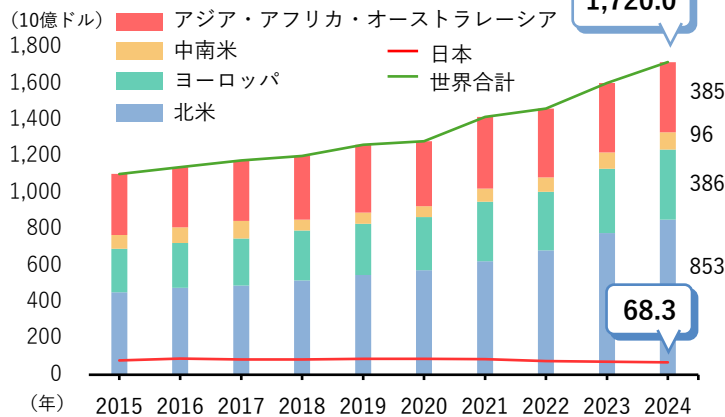
出所: 厚生労働省

● 薬価改定

改正年月日	改定率(薬剤費ベース)
2006/4/1	-6.70
2008/4/1	-5.20
2010/4/1	-5.75
2012/4/1	-6.00
2014/4/1	-2.65*
2016/4/1	-5.57
2018/4/1	-7.48
2019/10/1	-2.40*
2020/4/1	-4.38
2022/4/1	-6.69
2024/4/1	-4.67
2026/4/1	-4.02

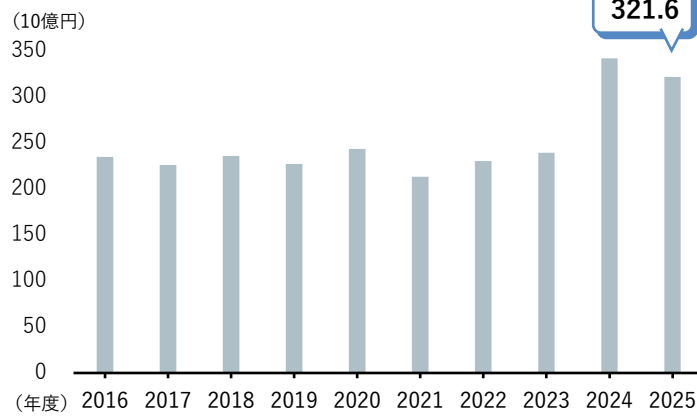
出所: 厚生労働省 ※消費是率変更分をNetして算出

● 世界の医療用医薬品売上高



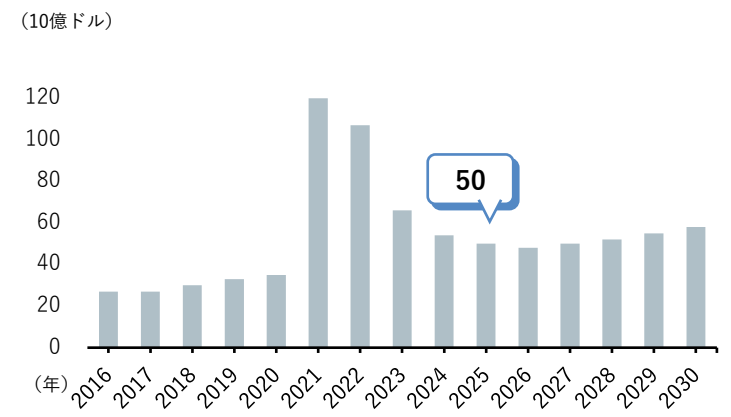
出所: Copyright © 2026 IQVIA. IQVIA World Review, Data Period 2015から2024をもとに当社作成 (無断転載禁止)
出典: 日本製薬工業協会 DATABOOK2026

● 日本のワクチン市場



Copyright © 2026 IQVIA.
Calculated based on JPM 2017 Mar MAT - 2026 Mar MAT
Reprinted with permission

● 世界のワクチン市場 (将来推計)



Source: Evaluate Pharma® Mar 2026, © Evaluate Ltd

企業活動関連

収益認識に関する会計基準・収益認識基準

2021年度より適用された、売上をどのように認識し、どのタイミングで財務諸表に反映するかという会計基準

履行義務を果たした際に、その対価として得られると見込まれる金額を収益として認識する
(例) 売上に連動して発生する特売費は売上高から直接控除する

医薬品関連

オーソライズド・ジェネリック

先発医薬品の製造販売元から特別な許可（オーソライズド）を受けて製造・販売されるジェネリック医薬品

供給確保医薬品

厚生労働大臣が指定する特定医薬品（要指導医薬品、一般用医薬品、薬局製造販売医薬品及び体外診断用医薬品以外の医薬品）であって、その安定的な供給の確保を図る必要性が高いものとして、厚生科学審議会の意見を聴いて指定する医薬品
明治グループでは、抗菌薬や血漿分画製剤を中心に複数品目が指定されている

中枢神経系（CNS）

脳と脊髄から構成され、全身の情報処理と指令を担い、身体の感覚・運動・思考などを統合的に制御する神経系。CNSはCentral nervous systemの略称
明治グループではうつ病・統合失調症を中心に豊富な治療薬をラインアップ

薬価改定

医薬品の適正価格を維持し、医療費の適正化を図るために行われる医療用医薬品の公定価格（薬価）を見直す制度

CMO/CDMO

CMOはContract Manufacturing Organization、CDMOはContract Development and Manufacturing Organizationの略称。CDOは医薬品の製造段階を、CDMOは医薬品の研究・開発から製造までを一貫して受託する事業

First/Best in Class

First-in-classは特定の疾患領域・作用機序において、世界で初めて承認された医薬品
Best-in-classは同一の作用機序をもつ薬剤において、有効性・安全性などが最も優れていると評価される医薬品

必須医薬品

世界保健機関(WHO)が定義。医療水準を維持するために必須と考えられる医薬品類（Essential Medicines）として選定



明治ホールディングス株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋2-4-16

- 本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身でご判断をお願いいたします。
- 本資料に記載された業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料には、監査を受けていない参考数値が含まれます。
- 本資料には、薬品（開発中の製品を含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。